

平成28年度地域で決める学校予算事業第3回推進懇話会 意見概要

開催日時	平成29年3月16日(木) 14時00分から15時15分まで
開催場所	市役所北棟6階21会議室
意見等を求める内容等	1 奈良市地域教育推進事業 第6回「交流の集い」の報告について 2 平成28年度奈良市コーディネーター研修について 3 今後の「地域で決める学校予算事業」の在り方について
出席者	出席者 5人 ・ 事務局 8人
開催形態	公開 (傍聴人0名)
担当課	学校教育部地域教育課 地域学校連携係

意見等の内容の取り纏め

《本会議の目的》

地域で決める学校予算事業の実施に当たり、事業の方針、内容、成果、課題などについて必要な助言、意見を求める。

《事務局による事業概要説明》

1 「第6回交流の集い」の参加者数、参加者アンケート結果について

報告事項

- ▶「地域が育てば子どもが育つ、子どもが育つと地域が育つ」をテーマに実施し、610人参加者。アンケート回答は183枚。参加人数は昨年並みだが大人の参加者が70人増。概ね肯定的な回答だった。「地域教育協議会などからの案内」による事業の認知がもっとも多かった。SNSの開催日前のリーチは500件。

2 「平成28年度奈良市コーディネーター研修」の報告について

報告事項

- ▶今年度4回実施し、のべ199人が参加。

3 今後の「地域で決める学校予算事業」のあり方について

報告事項

- ▶事業の持続発展のための「①地域人材の発掘・育成 ②事業の認知度を高める ③社会教育とのつながり ④自主財源の確保」の4つの観点を説明。このことを目指した提案事業4つのテーマ(①地域教育協議会の取組広報プラン ②コーディネーター等の人材育成プラン ③基礎学力を身につける学習支援プラン ④図書館や公民館等を利用した支援プラン)について説明。
- ▶プレゼンテーションにおける、各中学校区地域教育協議会の事業計画の評価をグラフ

(レーダーチャート)で説明。

- ▶文部科学省「地域学校協働活動推進事業」について説明。
- ▶事業計画書には「伸ばしたい具体的な子どもの力」などの項目を新設。

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見・感想等》

—以下の意見は前述の3案件報告事項とその資料を基に話し合われた—

1 奈良市地域教育推進事業 第6回「交流の集い」について

(参加者数、参加者アンケート結果など)

意見 ●交流の集いのアンケート回答について

- ▶自由記述の意見を、課としてどのように総括しているか教えてほしい
→事務局パネル展示の在り方、実行委員会形式の進め方、交流の集い趣旨の再検討(市民へのアピールとコーディネーターの相互交流や学びの両立)を考えたい。
- ▶コーディネーターからは「多忙感」「趣旨のあいまいさ」という不満も聞かれるが、「交流の集い」の方向性は行政が決定すべきで、コーディネーターの多様な意見は参考程度でよい。事務局は、コーディネーターの作業観察を行う。そしてコーディネーター自らが、その不満や課題を解決できるよう促してほしい。また今年度の目標のひとつ「教職員の参加を増やす」などについて、達成の成否を振り返ることも大切である。

●パネルディスカッションについて

- ▶新しい試み。概ね好評であり、内容においても昨年とは全体的に異なる。昨年は子どもたちの参加が多く、楽しく子どもたちを身近に感じられた。子どもたちの参加は多いほうが良いが、目的が「教職員の参加を増やす」ことであるのならよい。
- ▶パネルディスカッションの目的は、より多くの地域人材が本事業を知ること。会場の参加者を巻き込む「よのなか科」のワークショップ的な場面があったが、各パネラーの偏り無く、意見を述べた。
- ▶第5回(昨年)と第6回では趣向が少し違ったが、各回の目的は達成してきた。

●経年の参加人数について

- ▶今年度、大人の参加者数が増加しているのは、本来の「交流の集い」の目的(コーディネーターの研修、コーディネーター同士の交流)を果たしているのが良い。昨年は学校教育課のキャリア教育事業「ジュニアインターンシップ ポスターセッション」で連携し、中学生の参加が増加したという事実もある。

2 「平成28年度奈良市コーディネーター研修」について

意見●平成28年度コーディネーター研修について

- ▶本研修は、地域教育推進事業にとって重要部分である。内容・目的を共に積み上げて実施してきている。

●奈良市コーディネーター勉強会について

▶奈良市コーディネーター勉強会の活動を教えてほしい。

→**事務局**今年度の前半期は奈良市コーディネーター研修の中の「第1回コーディネーター初任者研修」に協力していただいた。後半期は「奈良市におけるコミュニティスクール導入の現状と課題」について調査研究した。

コーディネーターの約十数名が自主的に組織し、月1回程度勉強会を開催している。今年度は奈良市コーディネーター初任者研修の協力も含め11回、3月に1回、合計12回を予定。開催場所は奈良市役所が主だが、メンバーが所属する小学校、中学校で開催することもあった。総合コーディネーター、地域コーディネーター、放課後子ども教室コーディネーターの少数名が活動している。

▶奈良市コーディネーター勉強会は、問題意識を持つ特定のコーディネーターたちのコアな活動である。自主的活動ではあるが、その活動を地域教育課でも掌握し、「地域で決める学校予算事業推進懇話会」でも説明してほしい。

▶奈良市コーディネーター勉強会を行政として、どうするのかも考えておくと良い。

3 今後の「地域で決める学校予算事業」の在り方について

意見●平成28年度地域で決める学校予算事業プレゼンテーション評価について

▶評価の結果を「総合」「課題と分析」「伸ばしたい子どもの具体的な力」「取組内容及び見積」「地域連携と支援」「計画性及び公開・評価」のグラフ（レーダーチャート）で表したのは、分かりやすい。

▶各協議会の特色や課題も見えてくるので、このグラフを総合コーディネーターと共有し、話し合いたい。

→**事務局**事業計画書からは活動や目的が読み取りにくい協議会もあるため、明確な表記を促し、正確な評価につなげることも課題である。

●「奈良市地域で決める学校予算事業」

事業計画書及び提案事業の項目について

▶提案事業の一つに「市立図書館や公民館を利用した支援プラン」があるが、これは国や奈良市の施策の一つである。施策を提案事業の項目にしてはいけない。

なぜなら全国的にも、奈良市の本事業、地域教育協議会のレベルは高い。文部科学省でも例をみないほどである。奈良市の行政には、本事業のビジョンを考えてほしい。誰がそのビジョンを考えるのか、本推進懇話会ではないと思う。ビジョンを示さず、施策のみを押し付けるのは良くない。

▶今回のプレゼンテーションでは「基礎学力を身に付ける学習支援プラン」をテーマにした協議会が多くみられた。今後も増えるようだ。その要因として、コーディネーターは学校の希望に応えようとするのが挙げられる。その要因が表れている。低学力児童生徒への支援を学校とコーディネーターが相談して実施するなら、行政は先にその取組における是非の判断を持つべきである。

●地域教育推進事業のビジョンについて

- ▶国の動向やビジョンは今回の説明とポンチ絵で理解できた。では奈良市のビジョンはどうか。各中学校区地域教育協議会のビジョンはどうか考えてほしい。
- ▶行政と地域人材が共に話し合うことが大切である。例えば「人材育成」において他府県では、行政は退職管理職などをコーディネーターに依頼する例がある。しかしコーディネーターの力を伸ばす上で、力のある管理職コーディネーターがすべてを担うのはいかなものか。
- ▶文部科学省が示す本事業などの「ポンチ絵」を、奈良市に当てはめて描き、発信してほしい。多くの実例があり、本事業を経年継続している奈良市であるからこそ、多様なパターンを紹介でき、奈良市独自のものが作成できる。これは奈良市にとって、本事業が更に高く評価されることになり、有益である。
- ▶奈良市らしい特殊な政策、例を挙げると「小中一貫教育（施設分離型）をいかに進めるか」を盛り込むのはどうか。
- ▶今後は、高等学校と大学との連携も関係してくる。また幼保連携の要素も加えてはどうか。小中一貫教育の次は義務教育学校か。